

# History 新野左馬助親矩

キラリを再発見

特別編

# No.8

## 彦根の龍潭寺を訪ねて

滋賀県彦根市にある龍潭寺は、慶長5年(1600年)に井伊直政が佐和山城主になったことを機に、引佐の龍潭寺二世「昊天禪師」によって移建開山された、井伊家と深いゆかりがある臨済宗の名刹である。

同寺院には、新野左馬助親矩公の位牌と墓石がある。これらは、井伊直弼の兄で、井伊家筆頭家老木俣家の養子になっていた井伊中守(新野親良)(※1)が天保元年(1830年)、新野左馬助公の名跡を相続し、新野家を再興したときに作られたものである。

新野家を再興するにあたり、中守が木俣家を相続し、分家するという形をとった理由は、左馬助公の娘(栄光大姉)が、木俣家へ嫁いだという縁によるものと思われる。このことから、井伊家では、後の世代にまでも同家存続の貢献者として、新野左馬助公への恩義をいかに大切にしてきたかが分かる。

※1 彦根藩主井伊直中の子(十男)



▲滋賀県彦根市の龍潭寺



▲新野家の墓所(彦根龍潭寺内)

大河ドラマ「おんな城主 直虎」  
応援プロジェクト

照会 社会教育課 ☎0548⑧1129

# Atomic

暮らしと原子力

「御前崎市が締結している  
安全協定について」

県と浜岡原子力発電所の緊急時防護措置を準備する区域圏内(UPZ)にある5市2町(島田市、磐田市、焼津市、藤枝市、袋井市、吉田町、森町)と中部電力(株)が7月8日、「浜岡原子力発電所の周辺市町の安全確保等に関する協定」を締結しました。

一方、御前崎市は、昭和46年3月に県、周辺3市、中部電力(株)と原子力発電所の周辺環境の安全を確保することを目的に安全協定を締結しています。締結以後、2度の内容見直しを経て、現在の安全協定として運用しています。

安全協定とは、相互信頼と合意に基づく任意の協定であり、原子力発電所が立地している地域ごとに、その地域の歴史や背景をもとに締結するものです。

市が締結している安全協定の内容は、防災対策、環境放



▲UPZを表す31\*の半円